

# フィールド 便り

作：平田 美紗子  
(林野庁渉外広報班)

里山や公園で、この時期沢山のどんぐりに出会うことができます。どんぐりと  
はブナ科の樹木が作る実(堅果<sup>けんか</sup>)の総称で、日本の山野には20種類以上のどんぐ  
りをつける樹木があります。

**色々などんぐり** どんぐりは実の部分を包む殻斗<sup>かくと</sup>のタイプで3種類に分類できます。

《殻斗は合着して輪がある》  
(コナラ属のアカガシ亜属)

シラカシ→  
殻斗の輪は6～8個



←アラカシ  
殻斗の輪は5～7個

《殻斗が瓦重ね状》  
(コナラ属のコナラ亜属・マテバシイ属)

クヌギ→



←マテバシイ  
細長く  
スマートな  
形で、おしりが  
少しくぼむ

コナラ→  
ミズナラは  
少し大きく  
葉柄がない

《殻斗が全体を包む》  
(ブナ・シイ属)



←イヌブナ  
ブナと比べて  
殻斗が小さく  
堅果が下向き  
につく

←ブナ  
殻斗が大きく  
堅果は上向き  
につく

## どんぐりと動物達



歌に「♪どんぐりころころ」とありますが  
実際のどんぐりたちは転がるのではなく  
リスやネズミ、カケス達動物に  
運ばれることで移動します。



森の地面にどんぐりが枝ごと落ちていたら  
それはハイロチョッキリの仕業。  
どんぐりに穴をあけて卵を産みつけ、  
枝を噛み切って落とし、  
子供の餌を用意するのです。



どんぐりを作るクヌギやコナラは里山を構成する代表樹種として、昔から人間の生活に馴染みの深いものでした。若い  
時には萌芽力旺盛なこれらの樹種は、薪炭材やキノコ栽培の原木として里山での生活に欠かせないものだったのです。  
(P.10～11、「お山ん画」参照)

**リサイクル適性** (A)  
この印刷物は、印刷用の紙へ  
リサイクルできます。



本誌に使われている紙は、  
日本の森林を育てるために  
間伐材を積極的に使用しています。